

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1260 号	氏 名	赤 羽 順 平
論文審査担当者	主 査 関 島 良 樹 副 査 今 村 浩 ・ 小 泉 知 展 ・ 菊 地 利 明		

### (論文審査の結果の要旨)

ヒト免疫不全ウイルス (HIV) に感染していない症例におけるニューモシスチス肺炎 (*Pneumocystis pneumonia*: PcP) の発生率が高くなっている。HIV-PcP 患者と比較し、非 HIV-PcP 患者の予後は不良であるが、非 HIV-PcP 患者の予後因子は確立されていない。さらに、市中肺炎の重症度分類である A-DROP または市中肺炎の死亡率の予測に有用である血中尿素窒素/血清アルブミン比 (BUN / Alb 比) も、非 HIV-PcP 患者の予後因子として確立されていない。本研究では、非 HIV-PcP 患者の予後因子を特定することを目的とした。また、A-DROP と BUN / Alb 比を非 HIV-PcP 患者における予後予測因子と考え、その有効性を評価した。

長野県内の 5 施設 (信州大学医学部附属病院、長野市民病院、南長野医療センター篠ノ井総合病院、長野赤十字病院、諏訪赤十字病院) において 2003 年 1 月から 2019 年 5 月までに、非 HIV-PcP と診断された患者 (全 102 例) を対象とし、予後因子を後方視的に解析した。本研究の治療結果は、治療開始から 30 日以内の非 HIV-PcP 患者の全死因死亡で評価した。30 日死亡率に関連する予後因子は、多重ロジスティック回帰分析によって評価し、受信者動作特性 (ROC) 曲線は、30 日死亡率を推定する予後因子の能力を評価するために使用した。

その結果、赤羽は下記の結果を得た。

1. 本研究での非 HIV-PcP 患者の 30 日死亡率は 20.5%であった。
2. 非生存群では Alb が有意に低く、年齢、PcP 発症時のコルチコステロイド投与量、肺泡気-動脈血酸素分圧較差 (A-aDO<sub>2</sub>)、A-DROP スコア、乳酸脱水素酵素 (LDH)、BUN、BUN / Alb 比が有意に高値であった。
3. 多重ロジスティック回帰分析により、BUN / Alb 比が非 HIV-PcP 患者の 30 日死亡率と独立して関連していた。
4. 非 HIV-PcP 患者の 30 日死亡率と A-DROP スコアの間には正の相関があり、30 日死亡率は A-DROP スコアの増加とともに上昇した。
5. ROC 曲線から A-DROP スコアが非 HIV-PcP 患者の 30 日死亡率を推定する能力の最も高い予後因子であった。

これらの結果より、非 HIV-PcP 患者では BUN / Alb 比高値は死亡リスクの独立した予後因子であり、A-DROP は非 HIV-PcP 患者の重症度の分類に有用であると考えられた。

よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。